



NEWS

Vol.46 Winter 2004-1



ガステックは 35年目を迎えました

松野 洸



まつ の きよし
松野 洸

㈱ガステック代表取締役社長

2004年、明けましておめで
とうございます。

ガステックは35年目を迎
えました。お客様の安全に貢
献するとき、私たちに成長の
機会が与えられるという「安
全と成長」を経営理念とす
るガステックならびに従業員
一同にとって、皆様の長年に
亘る多大なご支援により、気
体の簡易測定分野で何が

しかのお役に立つことができましたことは、その幾分かを實現
できた喜びと誇りとするこ
ろであります。

昨年は簡易測定の周辺
技術の一環として、関係各
位のご指導を頂きながら開
発を進めてきましたガスサ
ンプリングシステムのひとつ
として、自動ガス採取装置
GSP-300FTを製品化する
ことができ、幸い、ご好評い
ただき、当社の目指してい
るところの技術の分野を広
げることができました。さら
に、低濃度ガス簡易測定
の拡大に向けて、これに対
応した製品の開発を進め

ているところであります。

言うまでもなく、簡易測定とは、気体の存否を確認できる程
度から、必ずしも精密な精度の測定器を必要としないものまで
の、測定目的に見合った精度の信頼性を有し、取り扱いに簡
易、利便性があり、且つ目的適合性のある価格を備えたもの
であります。私たちは簡易測定をシステムとして捉え、今後も
追求し続け、労働安全衛生マネジメントシステムへの対応、環
境測定、研究、分析といった皆様のお仕事に一層役立ち、こ
の成長の場をガステックの基盤の大きな柱のひとつとしてさら
に広げ、若い力に繋げてゆきたいと考えております。

一昨年の不幸な出来事はイラクを攻撃するという残念な結
果となり、複雑な国際関係の中、いまだ不安定なまま推移して

おり、核問題、拉致事件な
ど東アジアでの不安な状
況にある日本をとりまく環
境は経営環境を含め樂觀
できるものではなく、特に私
ども中小企業にとっては相
変わらず厳しい状況が続
きますが、精一杯、コツコツ
と仕事をさせていただきた
く、皆様には今後もより一
層のご支援とご鞭撻をお
願いする次第です。

新しい年が皆様にとって
良き年となりますよう心より
願っております。



A+A 国際労働保全・労働医学見本市視察に参加して

西日本営業所 當 麻 善 紹

2003年10月27日から30日までの4日間に渡りドイツのデュッセルドルフにおいて「A+A 国際労働保全・労働医学見本市」が開催され、参加する機会に恵まれましたのでその概要を報告させていただきます。また今回はミュンヘンにも足を延ばし、バイエルン王家が築き上げた『芸術の都』の文化に触れることが出来、非常に有意義で貴重な経験となりました。

9月半ばのとある日に部長からの電話が鳴る。電話に出ると「おい、君はパスポートは持っているか?」という一言から始まりました。

12年ぶりの海外。私のパスポートは当の昔に期限切れ、しかもハガキサイズのもの。もう海外へ渡航することはないだろうと置いていただけに有り難いやら大変やらで早速パスポートを申請し、ドイツ語の勉強を開始(?)と準備に大慌てでした。なんとといってもまだドイツの通貨がマルクと思っている位の海外通ですから。

デュッセルドルフへは、成田からフランクフルト経由で約13時間の空路でしたが思ったほどの時差ボケもなく無事到着することが出来ました。聞くところによると東から西への移動は比較的楽だということです。空港でまず驚いたことはタクシーの90%位がベンツ(しかも丸目の新しい型)でした。こちらでは大衆車ですかとガイドの方に尋ねると、400万ユーロ(約500万円)位するらしく、やはり生産国でも高級車のようです。現地の人はタクシーを利用することは少ないとも言っていました。

「A+A 国際労働保全・労働医学見本市」は10月27日～30日の4日間MESSEデュッセルドルフという巨大な見本市会

場の9つのホールにおいて開催され、ドイツ国内の企業約600社とその他海外の企業約700社、合わせて約1300社のメーカー、商社や協会団体



A+A 会場エントランス

などが出展しておりそのスケールの大きさに圧倒されてしまいました。日本からも7社が出展しておりヨーロッパ市場におけるこの見本市の影響力を痛感いたしました。

展示内容はヘルメット、安全靴等の保護具はもちろん労働安全衛生に関連するあらゆるものが幅広く展示されていました。近年の対テロの傾向か防護服が目についたように思いました。また弊社同様の気体測定機器に関しても20社ほどが展示しており目を引くものも多々ありました。

尚、「A+A 国際労働保全・労働医学見本市」は2005年10月に再びデュッセルドルフで開催されます。

デュッセルドルフについて

デュッセルドルフはライン川に沿って広がるノルトライン・ヴェストファーレン州の州都。人口約57万人の都市ですが、国際商業都市としてドイツのメディア拠点としてその存在感は都市の規模以上に大きく、日本企業がドイツ国内で最も多く進出しており6000人強の日本人が暮らしています。19世紀半ばにドイツで最初の鉄道が敷設されて以来急速に発展し、文化も大きく開花し始め、特に音楽の分野ではシューマン、ブラームス、メンデルスゾーンが活躍し音楽文化の発展に貢献しました。またファッションの発信地としても有名でナポレオンがデュッセルドルフを訪れた際この街を「小パリ」と形容したと言われるようにドイツの他の都市とは少し趣の異なった雰囲気



デュッセルドルフ市庁舎

が漂っており、繁華街も小ぢんまりとしていながらとても洗練されたきれいな街で思わず長居したくなるような気分

にさせてくれました。食に関しては、ソーセージとジャガイモとビールのイメージしか持っていなかったのですが、この機会にドイツの名物料理にも挑戦(?)してみました。どうもドイツ料理は味が濃く(塩味が強く)、またボリュームもありソーセージの盛り合わせとビールだけでも充分お腹いっぱいになってしまうほどで関西の薄味に慣れている私には少々強烈でした。もっとも滞在期間が短かったため、その真髄を理解することが出来なかったのかもしれませんが。ただビールは美味しかった。ここデュッセルドルフにはアルトビールという地ビールがあり昔ながらの醸造法で造られた、濃い茶褐色で香りは強く苦みのきいた大変おいしいものでした。ほとんどの店では醸造所からたる詰めで仕入れて出しているらしいです。

また気候は、北海道と同じような気候で私が訪れたのは10月末でしたが、かなり寒くコートが必要な毎日でした。



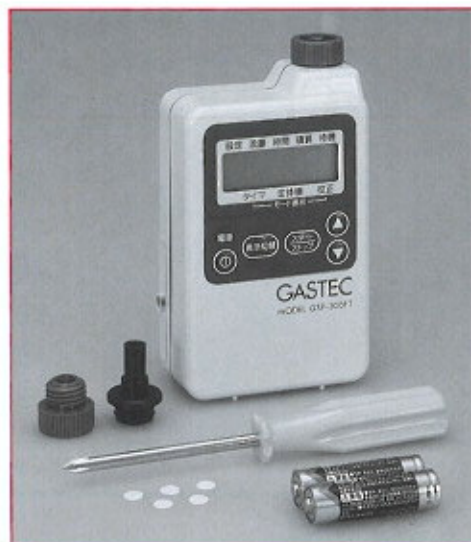
ミュンヘン市街

検知管方式による 室内空気汚染物質（ホルムアルデヒド）測定方法

ホルムアルデヒド検知管（No. 91P、No. 91PL）が「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」の改正に伴い「厚生労働大臣が別に指定する測定器」としての指定（厚生労働省告示第204号）を受けました（本誌Vol. 44で既報）。

本稿では、自動ガス採取装置（GSP-300FT）と検知管を用いた、室内のホルムアルデヒドの濃度を測定する方法について、その概要をご紹介します。

室内の衛生的環境の確保を維持していくために、ご活用ください。



自動ガス採取装置（GSP-300FT）

1. 自動ガス採取装置（GSP-300FT）と測定準備

- ① 採取装置に単三乾電池2本を入れ、電源スイッチを2秒押し、電源を入れます。
- ② 流量200ml/min、タイマ30分間に設定します。
また、専用の吸引ニップル（緑）を本体に装着します。
- ③ 測定には、採取装置、検知管に加え、チップホルダ及び温度計が必要となります。

2. ホルムアルデヒドの測定方法

- ① ホルムアルデヒドの検知管は温度補正が必要です。温度計を用意して、測定場所の室温を測定します。
- ② 検知管の両端をチップホルダを用いて折り取ります。
- ③ 採取装置に検知管を取り付けます。
- ④ 採取装置のスタート/ストップスイッチを2秒以上押して、ポンプを稼働させます。30分後に自動的に停止します。
- ⑤ 30分後、検知管を採取装置から取り外します。
- ⑥ 検知管の変色部分の先端に相当する目盛の値を読みます。
- ⑦ 温度補正表により、①で測定した温度に相当する補正係数を求め、⑥で読んだ値に乗じて測定値とします。



- 室内空気中化学物質の室内濃度指針値（厚生労働省）ホルムアルデヒド: $100\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.08ppm)
- No. 91P ホルムアルデヒド検知管（厚生労働大臣指定番号1504）測定範囲: 0.02~0.4ppm (30分測定)
- No. 91PL ホルムアルデヒド検知管（厚生労働大臣指定番号1505）測定範囲: 0.02~0.2ppm (30分測定)
- 自動ガス採取装置と各検知管の詳細は、それぞれの取扱説明書を参照してください。

展示会情報

● 水質計測・水処理展2004
期間/2004年3月17日(水)~18日(木)
会場/札幌コンベンションセンター
URL/<http://www.kankyocomps.co.jp>

● 第77回日本産業衛生学会併設展示会
期間/2004年4月13日(火)~16日(金)
会場/名古屋国際会議場
URL/<http://www.u-net.city.nagoya.jp/ncc/>

※上記の展示会には、当社も出展しております。ご来場の際は、当社ブースにもお立ち寄りください。

頻発する爆発・火災を考えよう

～見て、体感する爆発・火災～

最近、大手製造業の工場爆発・火災事故が相次いで発生しています。このような状況を踏まえ、中央労働災害防止協会では、爆発・火災の恐ろしさを目



で見て体験することにより、安全に対する意識の向上を図ることを目的とした特別企画展を11月4日～12月25日の間、産業安全技術館（東京及び大阪）の2会場で同時に開催いたしました。

会場では、粉じんによる爆発の威力のもの凄さを体験する粉じん爆発試験装置の実演や、近年、国内で発生した事故現場のパネル展示に加え、爆発・火災に関する通達、過去に発生した労働災害事例の公開など情報量満載の



企画でした。

産業安全技術館では、こうした特別企画展の他、産業安全に関わる常設の展示も行われています。

詳細は以下の産業安全技術館ホームページでご確認ください。

http://www.jaish.gr.jp/museum/japanese/t_index.html



〈芳香族化合物編〉

❓ 1. 芳香族化合物とはどのような物質ですか。

▲ 1. 一般的には「ベンゼン環を含む化合物」と定義され、当然ベンゼンが基本となります。ベンゼン(C₆H₆)は、図に示す有名な亀の甲の記号で表されます。

ベンゼンのHが1つ取れて、CH₃に置き換わると、トルエン(C₆H₅CH₃)に、CH₂に置き換わるとスチレン(C₆H₅CH=CH₂)に、Hが二つ取れて、CH₃二つに置き換わると、キシレン(C₆H₄(CH₃)₂)になります。

その他、ベンゼン環が複数結合した多環化合物など、さまざまな物質が存在します。

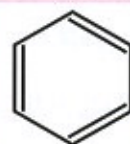


図 ベンゼンの構造

芳香族とはいうものの、それほど「芳い香り」とはいえません。むしろ、トルエン、スチレン、キシレンは悪臭防止法で規定する特定悪臭物質に指定されています。また、ベンゼンは発ガン性があるので、むやみににおいを嗅いだりしないほうがよいでしょう。

❓ 2. 検知管による芳香族化合物の作業環境測定は可能ですか。

▲ 2. 可能です。ただし、他の芳香族化合物の干渉を受ける場合がありますので(例:トルエンとキシレンが共存した場合など)注意してご使用ください。

作業環境測定基準で規定されている代表的な芳香族化合物の検知管の仕様を以下に記します。

	ベンゼン	トルエン	キシレン	スチレン	o-クレゾール
型 式	121SL	122L	123	124L	61
測定範囲	1~100ppm	1~100ppm	5~625ppm	2~100ppm	0.4~62.5ppm
管理濃度	10ppm	50ppm	100ppm	50ppm	5ppm



ガステックニュース Vol.46

2004. 冬

発行日/平成16年1月15日(季刊)

発行/株式会社ガステック

編集/ガステックニュース編集部

〒252-1103

神奈川県綾瀬市深谷6431

TEL.0467(79)3911 FAX.0467(79)3979

制作/信和印刷株式会社

●編集スタッフからのお願い

各方面よりの情報、およびご意見・ご要望・ご質問などをお待ちしています。なお、当ニュースは製品・技術情報誌ですので、ぜひご保存ください。また、定期送付をご希望の方は、FAXなどでお申しつけください。次回発行は平成16年4月の予定です。

編集スタッフ

責任者/小口博史

委員/浅井保義、金子文彦、斎藤 弘、

中丸宜志、宮下直人



株式会社ガステック

SINCE 1970

営業本部: 〒252-1103神奈川県綾瀬市深谷6431
電話0467(79)3911(代) Fax.0467(79)3979

本社/工場: 〒252-1103神奈川県綾瀬市深谷6431
電話0467(79)3900(代) Fax.0467(79)3978

西日本営業所: 〒532-0003大阪市淀川区宮原2-14-8宮原ビル
電話06(6396)1041 Fax.06(6396)1043

九州営業所: 〒803-0843北九州市小倉北区金鶏町9-27第一岡部ビル
電話093(652)6665 Fax.093(652)6696

ホームページアドレス: <http://www.gastec.co.jp/>